

# 「めだかの学校」

「めだかの学校」は、ゆいぽーとの自主事業として2018年の開館年にスタートしました。施設の前身である旧二葉中学校の学び舎としての特性を活かし、広く市民に開かれた生涯学習の場として親しまれています。新潟の文化や歴史など独自のテーマ設定と多彩な講師陣が人気を集める連続講座です。今秋、待望の第6期が開講します。新潟ゆかりの近代美術を共通テーマにおくる新プログラムにご期待ください。



**会期**：2023年9月～12月（月1回／全4回）

**会場**：ゆいぽーと（4階多目的スペース2）

**定員**：35名程度（先着申込順）\*8月23日（水）より受付開始！

お名前・ご住所・電話番号・受講を希望する講座名をお知らせください。

**参加費**：各回500円 \*駐車スペースに限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

「武石弘三郎一人物と作品、  
《竹内式部像》実地見学」

第1回

日時：9月30日（土）14:00～15:30

**講師**：伊澤朋美（新潟県立近代美術館学芸員）

中之島長呂（現長岡市）出身の彫刻家・武石弘三郎（1877～1963）は、多くの芸術家がフランスに赴く中、ベルギーに留学し、本格的な彫刻技法を学びます。帰国後は堅実な表現を活かし、肖像彫刻の分野で活躍します。武石をはじめベルギーに留学した作家たちに焦点をあて、戦前のベルギー美術受容について探る展覧会「ベルギーと日本」（9/16～11/12）が、新潟県立近代美術館で開催中のこの機会に、武石の人物と作品について紹介。その後、武石が制作を手掛け、二葉校の創立記念事業として建立された《竹内式部像》を、隣の二葉公園に実際に見学しに行きます。

「藤田嗣治と新潟」

第2回

日時：10月28日（土）14:00～15:30

**講師**：石垣雅美（にいがた文化の記憶館学芸員）

1920年代のパリで人気を博した画家・藤田嗣治（1886～1968）は、1933（昭和8）年から1939年まで日本に定住し、国内各地を訪れて制作や個展など作家活動をしました。この頃、新潟でも個展を開催しています。また藤田は、少女小説家・吉屋信子や舞踊家・藤蔭静樹、画家・落谷虹児や竹谷富士雄など、新潟出身またはゆかりの文化人ともつながりがありました。この回では、藤田嗣治と新潟、そして新潟の文化人との関わりをみていきます。

「木彫の匠・島田美晴」

第3回

日時：11月25日（土）14:00～15:30

**講師**：本井晴信（元新潟県立文書館副館長）

いまから80～100年前、新潟市内に「美晴」と号する木彫の匠がいました。精緻な作品は多くの好事家の床の間を飾ったそうですが、いつの間にかすっかり忘れ去られたようです。彼が新潟で制作に打ち込んだのは主に昭和戦前の約20年間でした。近代社会の新しい感覚が次々と日常生活を変えてゆきつつある中で、ひたすら伝統感覚を守り続けてきた美晴は何を思い、創り出そうとしてきたのか、少ない手がかりから探ってみたいと思います。

「高村光太郎にとっての新潟」

第4回

日時：12月23日（土）14:00～15:30

**講師**：山浦健夫（美術史家）

高村光太郎（1883～1956）は彫刻家であり詩人であった。特に詩集『智恵子抄』はあまりにも有名である。その智恵子が光太郎と結婚する前に現在の阿賀野市に滞在していたことは、知られていない。また、光太郎が実業家で文人の渡辺湖畔（1886～1960）の招きで佐渡にわたり作品をのこしたり（大正7年10月）、長岡へも父光雲の遺作展（昭和12年5月）や鯉の制作で何度も訪ねたことも知られていない。今年は高村光太郎の生誕140年にあたる。新潟県に関わるこれらのエピソードをあわせて紹介したい。

## 【主催・お申し込み】

ゆいぽーと（新潟市芸術創造村・国際青少年センター／指定管理者：環境をサポートする株式会社きらめき）  
新潟市中央区二葉町2丁目5932番地7 TEL. 025-201-7530 開館時間：午前9時～午後9時30分 www.yui-port.com

